

教材・支援機器活用実践事例

肢体不自由のため移動に制限のある児童が、ゴムの伸びと物の動きのつながりを体感するための教材
「ゴムゴムカー」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・小学部6学年（重複障がい学級）
	障がい名等	肢体不自由 知的障がい
	子どもの実態 （学習上又は生活上の困難さ等）	○立位ができる児童と車いすでの座位保持ができる児童が混在している学級である。 ○みんなで関わりながら競争をするような、ゲーム的な活動を好む。 ○生活科の学習に意欲的に取り組むことができる。
授業について （教材・教具を使用した授業や指導場面）	教科名等	生活科
	単元(題材)名	「ゴムであそぼう」
	単元(題材)の概要	身近な素材で、簡単な仕組みのゴムの伸びを動力とする車を作成する。教師と競争する場面設定でより遠くまで走らせたい気持ちを高めることで、ゴムの伸びと進む距離のつながりに気付くことができる。
教材・教具・支援機器について	教材・教具・支援機器	<p>【名称】 ゴムゴムカー</p> <p>【画像】</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(使い方)</p> <p>車の底面にあるフックと走行レーンにあるフックに輪ゴムをひっかけ、車を引っ張って放すことで車が進む。</p> </div>
	ねらい・工夫点等	<p>○ゴムには物を動かす力があり、ゴムの伸びた長さやゴムの本数によって動かす力には違いがあることに気付くことをねらいとしている。</p> <p>○走行レーンにあるフックを両面テープで設置できるようにすることで、ゴムの伸びを変えることができる。</p> <p>○走行レーンを車の幅と同じくらいの広さにすることで、曲がることなく進むことができる。床に落ちたり、コースを外れたりせず進むことができ、他者との距離の比較が容易である。</p> <p>○ゴムを伸ばした長さをビニールテープで示し、視覚的に比較できるようにする。</p>
	材料・作成方法等	<p>ゴムゴムカー・・・大小の木片、車軸となる竹ひごとストロー、車輪となるペットボトルキャップ</p> <p>走行レーン・・・加工段ボールを長机にのせる。無い場合は長机に直接牛乳パック等で仕切りを作る。フックの貼り替えを両面テープで行うため金属製のものを使用する。または、数を準備する。</p>
子どもの変容や評価	<p>○教師のゴムの伸びと、児童のゴムの伸びをビニールテープで比較することで、よりゴムを伸ばすことにより、車の進む距離が長くなることを理解することができた。</p> <p>○教師と競争する場面を設けることで、より遠くまで進ませるために「さらにゴムを伸ばそう」という姿勢が見られた。</p>	